

平成 27 年度 狂犬病予防注射業務関係者研修会の開催

平成 27 年度狂犬病予防注射業務研修会が、平成 27 年 11 月 12 日(木)に新潟県自治会館において開催された。小春日和の良い天気の中、開業獣医師 112 名、新潟県職員 13 名、市町村職員 37 名、その他 4 名の合計 166 名が参加した。冒頭、楠原征治県獣会長理事、藤田伸一新潟県福祉保健部生活衛生課課長様の挨拶にはじまり、行政説明と講演が行われた。

行政説明では、阿部久司・新潟県生活衛生課 動物愛護・衛生係副参事が、平成 26 年度の狂犬病予防注射接種状況と接種率の推移が説明された。接種率に関しては県内地域差があるものの約 90%であるとされた。しかし登録数に対する接種率であるため実際の飼育数が把握できない現状も大きな課題であると思われる。

また、台湾の狂犬病の発生状況も報告され、台湾では野生動物、特にイタチアナグマの感染が問題となっており、これを受けて日本の対応として厚労省は、野生動物や咬傷事故犬を対象にしたモニタリング検査の協力依頼を関係機関に出しているとの報告がなされた。

研修会後半の講習会は、静岡県開業の杉山和寿先生を講師に迎え、「知っておきたい狂犬病の知識」と題して世界の現状、特にタイ・バンコクの状況を中心に講演が行われた。実際にバンコクへ視察に行った話や、狂犬病罹患犬の DVD 動画が多く紹介された。病期による罹患犬の症状の変化がわかりやすく解説されて、現実的な狂犬病の恐ろしさを我々に与えてくれた。台湾での狂犬病発生に関しても言及され、「対岸の火事ではない」と言うことを力説された。



研修会の様子

また、新潟県獣医師会からの伝達事項として、狂犬病ワクチン接種後の副作用に関連して、次年度から集合注射会場と動物病院に張れる副作用周知のポスターを制作することと、もし副作用が起こった場合の新たな報告書が資料として添付された。

終了後の質疑では、会場の獣医師だけでなく、市町村職員からも活発な質問が出され、事例として一般市民から、「ハクビシンに咬まれたが狂犬病は大丈夫か？」との相談があり、どのように対応したら良いのかと現実的な質問が印象に残った。狂犬病が決して過去の感染症ではないという現実を再認識させられた研修会であった。



行政説明 阿部久司 副参事



講演される 杉山和寿 先生